

建築主：学校法人佐野学園  
 設計：株式会社松田平田設計  
 施工：大成建設株式会社千葉支店  
 所在地：千葉市美浜区若葉1-4-1

大地から迫り上がる国際交流環境

## 神田外語大学 7号館

6



キャンパスと一体となった緑の丘

高速道路(東関東自動車道)とその緩衝樹林帯に沿う、大学キャンパスのオープンスペースの一角に本施設は立地している。平坦なラグビー場やその周辺の芝地が徐々に迫り上がるように緑化されたのびやかな屋上が、学生達に解放されている。一方、大学の主要施設側に向けた主入り口は、湾曲したガラス張りの立面で人々を向え入れる。円錐と円筒状の二つのタワーは、対峙しながら水平線を破り、垂直動線のありかを顕示している。その佇まいがすでに「環境に配慮した」意図を十分に感じさせるものだ。内部には国際色豊かな大学を象徴するエスニックな展示・体験・交流空間と、おしゃれな学食、図書館、セミナールーム等が有機的に同居している。

技術的には必ずしも目の覚めるような先端性を具備しているわけではない。屋上緑化、水蓄熱、床吹き出し空調、クールチューブ、段ボールダクト等、日本では既になじみのアイテムである。むしろ注目したいのは、高速道路側にL字状に配置された設備機械室である。



学生が自由に利用出来る緑の丘

暗騒音や熱負荷への対策の観点から、非空調スペースが外部と居室との間の緩衝空間として巧みに機能していると思われる。こうした建築的取り組みが、発注者側の明確なプログラムやイメージにうまく折り合ったことに本施設の魅力の理由が発見できる。

ただし、こうした環境に配慮した事項にもその客観的なエビデンスが求められる。そんな趨勢にあって、今後ぜひ期待したいのは、事後評価の仕組みと運営管理、そして情報発信である。そして、大学という教育機関にあって教職員と学生が共に参加しながら、ここで実現した数々の取り組みの効果に関する持続的な検証を望みたい。(岩村和夫)



魅力的な学習環境のラーニング・commons

(撮影/川澄建築写真事務所)